



### 筑波大学メールマガジン“ペデジャーなる” 2015年5月-春号

—OB・OGと学生を結びながら、懐かしさと新しさ香る筑波の風を季節の便りとしてお届けしていきます。

## INDEX

1. 『The Young Americans つくばスペシャル』  
— 7月に行われる、歌とダンスのイベントをご紹介します。
2. 『筑波山レポート in Spring』  
— 筑波山について、登った記録とともに紹介します。
3. よりみち図鑑 vol.3  
— 上だけではなく、たまには足元も見てみませんか。
4. 芸術系棟リニューアルオープン  
— 改修後の芸術系棟についてレポートします。
5. ツクバネコスナップ No5  
— 私たちの小さな隣人、ツクバネコたちの生態にせまります。
6. 春は別れの季節  
— アルバイト先でのエピソードをエッセイにしました。

# 『The Young Americans つくばスペシャル』



春と言えばサークル・部活を決める時期、今年の春も新歓イベントがにぎわっていました。新入生は夜ごはんに困りませんね。学内の活動といえばサークル・部活に目を向けがちですが、他にも様々な団体・イベントが存在します。この記事ではそのようなサークル・部活外の活動をご紹介します。

春号で取り上げるのは、『The Young Americans つくばスペシャル』です！ みなさんは『The Young Americans』、ご存知ですか

【「The Young Americans」(以下 YA)とは】

1962年にミルトン・C・アンダーソンによって設立された非営利活動団体で、17～25歳の若者たち、約300人で構成されています。アメリカのコロナという町に拠点を置き、世界中からオーディションを経て集まった若者たちが研修を受け、その後世界各国を回ります。彼らの主な活動は大きく分けて2つ。1つはショーなどの音楽公演を行うこと、もう1つは1992年から始まった「アウトリーチ」と呼ばれる教育活動です。

「アウトリーチ」ではYAのメンバーが実際に学校やコミュニティを訪れ、参加者とわずか2・3日間で歌とダンスのショーを作り上げます。現在「アウトリーチツアー」と称し世界各国に赴くYAですが、初来日は2006年で、2013年には地域と合同して筑波大でも初開催されました。

そして、2015年もYAがつくばにやってきます！！その名も「The Young Americans つくばスペシャル」です。2013年の初開催時から、NPO法人じぶん未来クラブ、筑波大の有志運営メンバーと大学職員サポーター、そして地域のサポーターが協力して開催してきました。

通常のジャパンアウトリーチツアーでは小・中・高校生が対象となりますが、つくばスペシャルでは筑波大生が参加できることが大きな特徴となります。(大学生や社会人が参加できる会場は他にもありますが、数は限られています。)筑波大生にとっては、同年代だけれども国籍が違う<YA>、同じ日本人だけれども年代が違う<地域の子もたち>といった、普段よく関わることのない人と接することができるという一面もあります。

そのような様々なバックグラウンドをもつ人々が3日間で、1時間の歌とダンスのショーという“ひとつのもの”を作り上げます。YAが大事にしていることは上手い下手の技術的なものではなく、「思いっきりみんなで楽しむ」ことです。最終日のショーは一体感あふれるあたたかい空気の中で、お客さんも一緒に楽しめるものになります。最初は経験のない歌とダンスに戸惑っていた参加者も、ショーではみんな笑顔に！ 3日間で得た経験と感動は忘れられないものになるはずですよ。

【今年度の開催情報はこちら↓】

『The Young Americans つくばスペシャル』

2015年7月10日(金)～12日(日) ※ショー17:30～19:30

場所:筑波大学 学生会館お問い合わせ:筑波大学学生チーム[ [ya.tsukuba@gmail.com](mailto:ya.tsukuba@gmail.com) ] 今年度の『The Young Americans つくばスペシャル』も、学生チームが着々と準備を進めています。機会があったらぜひ注目してみてくださいね！

(人文・文化学群比較文化学類3年 山田祐奈)

## 🌸 2 『筑波山レポート in Spring』

春の筑波山に行ってきました。

つくば市の北にある筑波山は、日本の百名山にも選ばれた景色の綺麗な山です。四季折々にその景色は変わり、つくばにいた方なら遠目に見たことがあるかと思います。今回はそんな春の筑波山について伝えられればと思います。

さて、4月の末。筑波山に向け、片道約17kmの道のりに自転車で挑んでみました。出発から、そのまま進み続けること約1時間半。既に疲労気味の私の前に立ちはだかったのは、坂でした。坂は陰しく長く、果てしなかったです……。それでも、何とか自転車を漕いだり押したり、息絶え絶えになりながら到着。

ですが、到着したのは、筑波山の登山口、つまり本格的に自分の足で登り始める地点です。この時点で、普段運動などしていない私の心は折れていました(情けない)。

幸運なことに筑波山には、登山口から一気に頂上近くまで行けるケーブルカーが通っています。そこで、今回はケーブルカーを利用することにしました。



ケーブルカー登り方面向き

ケーブルカーに乗り揺られること数分、筑波山の豊かな緑が眼下に流れている様はとても綺麗でした。そして、お土産や売店の立ち並ぶ山頂の駅で降車。そこから僅かではありますが歩いて山頂に向かいました。筑波山には男体山、女体山と2つの山があり、今回私が向かったのは男体山の頂上です。頂上の岩場に着いてみると、眼下に広がるのは広々としたつくばの景色。この日は少しばかり空気が霞んでいましたが、太陽の光が組み合わせるととても綺麗な光景を拝むことができました。

写真を撮り、満足した私はそのまま帰路のケーブルカーに乗ったのでした。

まとめとして、春の筑波山は自然豊かで生命力に満

ちた気持ちいい場所でした。まだ実際に筑波山に登ったことがないという方は勿論、登った経験がある方でもまた登ってみることをお勧めします。登山されている方々は親子連れやサークル、夫婦の方など様々で、登る際には誰かを誘ってもよいかもしれません。

これからの季節、暑くなると思われまますので、登る際には体調管理にお気を付けてください。

(情報学群知識情報・図書館学類 3 年 増田空)

### 3 よりみち図鑑 vol. 3



こんにちは、連休もあけいかがお過ごしですか。私はつくばに来て 3 回目の春を迎えました。2 年ぶりに引っ越しのない春ですが、なんだかそわそわしてしまいます。特に今年は 4 月のつくばにしては珍しく、雨が多かったり雪が降ったり(!)と天候の変化が慌ただしく、そのうえ 5 月を迎えたとたんに夏のような空気になりました。気が付けば春も終わりみたいです。

春の花といえば桜、3 月後半から 4 月前半にかけては桜を見上げる機会も多かったのではないのでしょうか。桜を見上げると背筋もシュッと伸びるような気がします。まさに始まりの季節にぴったりですね。ですが、たまには上じゃなくて自分の足元に目を向けてみようと思います。今回はあのタンポポです。タンポポはユーラシア大陸に自然分布する花で、英語名のダンデライオンはフランス語で「ライオンの歯」を意味します。これはタンポポの葉のギザギザが歯に似ていることに由来しているそうです。花言葉は「愛の神託」や「真心の愛」など(諸説あり)で古くからヨーロッパでタンポポの綿毛で恋占いをしていたことからこの花言葉が生まれたそうです。タンポポ占いはこれまた諸説あるのですが、一息ですべての綿毛を吹き飛ばせれば「情熱的に愛されている」、少しでも残れば「心離れの気配あり」で、たくさん残れば「相手が自分に無関心」というものだそうです。私がタンポポを見つけた松見公園でも小さい子が道端にあるタンポポに向かってふーっと息を吹きかけていました。もしかしたらあれも恋占いだったのかもかもしれません。駅に向かう途中の道は、普段は急いでいるので気が付かなかったのですが、子どもから目を離してふと周りを見回すと休日の公園では老夫婦がのんびり散歩していたり中学生がおしゃべりしながら歩いたりとてもゆっくりした時間が流れていました。4 月はバタバタしてしまい、気持ちまでせわしなくなってしまうがちだったのでのんびりした時間を久々に垣間見ることができたように思いました。

上を向いてしゃんとすることももちろん大事ですが、自分の足元にあるものに目を向けてみることで新しい気持ちを取り戻せることもあるのではないかと、そう感じた春と夏の境目の一日でした。G.W も終わってしまいましたが、一呼吸おいてまた一日ずつ自分なりに過ごしていけたらなと思えばかりです。

[社会・国際学群国際総合学類 3 年 寺尾侑子]

## 4 芸術系棟リニューアルオープン！



こんにちは！ 新年度が始まりましたね。新しい出会いがあったり、新しい町に引っ越してみたりと皆様の周りでも何かしら生活環境に変化があったのではないかと思います。私はこの春で修士の2年生になりました。研究室には新しく学群の3年生が入り、気付けば私が研究室内の最年長になっていました！ そして私の周りでもう1つ新しく変わったことがあります。3年前ほど前から主に芸術系の学生が使用する6A棟の改修工事が行われていたのですが、長年の時を経て遂に工事が終わったのです！ という事で、今回は新しくなった6A棟(芸術専門学群A棟(以下6A棟))についてお伝えしていきます。まずは学生が自由に展示を行えるギャラリースペース、T+(ティータス)です。写真を撮影した時は芸術専門学群3年生の個展が開催されていました。T+自体は開閉時に不快音を立てていた扉が改善されるなど所々マイナーチェンジを遂げていたのですが、注目して頂きたいのは写真上部の棟の色です！ 今はうす緑色になっていますが、実は少し前まで6A棟はあずき色だったのです。棟全体が塗り変わったのですが、以前も今も渋めなカラーリングなので意外とあまり違和感はありません。

次は棟内に入ってみます。2階の3部屋ほど個室が並んでいた箇所が壁ごと壊され、現在は大教室となりました。使っていた机や椅子も統一感があるものに新調され、こだわりを感じる空間になっています！ 写真は夕方撮ったので少し暗く感じるのですが、昼間は大きな窓から太陽光が差し込み、とても良い気分で授業を受けられます。この部屋は授業の他に、講演会などにも使われています。

特に創造的復興プロジェクトの授業「視点構築論」では現代アーティストの Chim ↑ Pom さんや、ドラマ「あまちゃん」の音楽を担当されていた大友良英さんなど、簡単にはお会いできない方々の

講演をこの教室で聴く事が出来ました。教室の柱部分にはご来校頂いた外部講師の方のサインが刻まれています。

いかがでしたか？ 申し訳ない事に改修前の写真が 手元に無く、比較が出来ないためピンと来なかった方も多いと思います。中には「6A 棟の存在なんて知らなかった」という方もいるのではないのでしょうか。この記事が芸術系の事を知るきっかけになっていると嬉しいです。また他にも学生宿舎など、少しずつ大学は新しくなっています。大学にいらっしゃった際には、在校時との変化を見つける事もお楽しみの1つにしてくださいね！

(人間総合科学研究科 芸術専攻 博士課程前期2年 金森 陽子)

## 5 ツクバネコスナップ No. 5



筑波にも新しい季節がやってきました。5月、新学期が始まっておよそ一か月。新しい学年、新しい授業、新しい人間関係……周りの環境ががらりと変わり、うまくやらないと、頑張らないと必要以上に気負いしてしまいます。しかしそんなちょっぴり緊張した空気が流れる新学期のつくばにも、我関せずとのんびり春の陽気を満喫している住人がいます。そう、つくばに暮らす私たちの隣人ツクバネコです。さて、彼らはどんな新学期を過ごしているのでしょうか？

### 【第五回】新学期ネコ

今回紹介するツクバネコは宿舎に住んでいる二年生の後輩から写真を提供してもらいました。遭遇場所はもはや安定の平砂宿舎です。そろそろ同じように宿舎に住む新入生たちの間でもツクバネコたちの存在が認知されてくるころでしょうか？

まずはこちら、石段の上でリラックスするツクバネコ。気持ちよさそうなこの寝顔。思わず眠気が移って隣で昼寝したくなってしまいます。



そしてお次はこちらの駐輪場での一コマ。二匹そろってリラックス中です。撮影時、授業に遅刻しそうになり急いで自転車を出そうとしていた後輩はこの二匹のおかげで実際に遅刻したそうです。



最後はこちらのすこし小高い位置にいるツクバネコ。学生宿舎のポストの上ですね。図らずしてぴったりのサイズ感に何とも言えないこの表情です。



新学期？ 緊張？ ツクバネコを見ていると私たちの抱える悩みがちっぽけなものに思えてきてしまいます。ツクバネコたちも何かに悩んだり、緊張したりするのでしょうか。友達とも言い切れないけど友達じゃないとも言い切れない、そんな新しい隣人との微妙な距離の測り方に彼らも頭を抱えたりするのでしょうか。きっとこんな面倒くさい悩みはないにせよ、ツクバネコたちにもツクバネコたちなりの悩みがあるのでしょうか。みんながみんな自分と同じく何かに悩んでいると思えば、新学期特有のこの悩ましい気持ちもなんだか少しだけ楽になるように感じます。さて、筑波にも新しい季節がやってきました。

(情報学群知識情報・図書館学類 大嶋航平)

## 6 春は別れの季節



入学に卒業、就職に退職。春は周囲の環境が変わることが多く、「出会いと別れの季節」とよく言われる。だが、初対面の人と打ち解けるのが苦手な私にとっては、「出会い」の喜びよりも「別れ」の悲しさがいつも勝ってしまう。

今年の春も、寂しい別れを経験した。私はアルバイトで塾講師をしているのだが、約1年間数学を教えた女子中学生との別れだ。

私が勤めている塾は、1対1か1対2で授業する個別指導塾で、講師は毎週同じ生徒を担当する。昨年の4月から私が受け持つことになったHちゃんとMちゃんは元々仲が良く、学校でクラスも部活も同じ。そして、数学が大嫌いというところも同じだった。

2人にとって塾が楽しい場所になるよう、授業の初めと終わりによく雑談をした。部活の大会が近いこと、学校の授業がつまらないこと、新しい筆箱のこと、好きな芸能人のこと……。私も中学生の頃は、彼女たちが今いるような世界を生きていたなあ——そんなことを思いながら、私自身も彼女たちと過ごす時間を楽しんでいた。

塾講師をしていると、小学生時代に自分が通っていた塾を思い出すことがある。その塾も個別指導塾で、講師は大学生が中心だった。私は引込み思案な性格で、先生との会話にいつも緊張していたが、一人、安心して話せる先生がいた。女性の先生で、プリントの端に「がんばれ！」などとセリフをつけた可愛い動物の絵を描いてくれたのを覚えている。当時大学生だった先生は、今は30歳前後。今頃何をしているのだろう、どこに就職したのか、結婚はしたのか——そんなことを時々、考える。

まだ小学生で、世界が狭かった私にとっての先生は大きな存在だったが、先生にとっての私は「アルバイト先の生徒の一人」くらいの存在だっただろう。でも、先生に分数の計算を教わっていた私が今大学生で、つくばで一人暮らしをしていて、先生と同じように塾講師をしていることを知ったら少しは驚くだろうか。それを伝える術はないけれど。

HちゃんとMちゃんは今年の2月末、県立高校の入試直前に塾を辞めた。2人とも、数学の成績が劇的に伸びることは無かったが、最初の頃よりは随分色々なことができるようになったし、計算ミスも減った。最後の授業の日、Hちゃんは少しはにかみながら、手紙とピンク色のシュシュを手渡してくれた。「先生とのお話がすごく楽しかった」「先生、大好きです」——手紙にならんだ言葉に、涙が零れた。

私の塾では、講師と生徒が連絡先を交換することは禁止されている。それでも私はHちゃんに返事がしたくて、手紙を書いた。あなたの立ち位置は「アルバイト先の生徒の一人」だったかもしれないけど、私にとってもあなたとの時間は楽しくて大切だったよ、忘れないよ——。そう、伝えたかった。だが、Hちゃんとは最後の授業以来塾で会うことはなく、手紙を彼女に渡すことはできなかった。



後で塾長から、HちゃんとMちゃんが同じ県立高校に合格したことを聞いた。渡せなかった手紙は、Hちゃんにもらった手紙と一緒に引き出しの奥にしまってある。毎週会って楽しく喋っていたのに、突然ぷつぷつと関係を途絶えさせられてしまう。私の塾は、今も昔も、そんな悲しい別れの場所だ。それでも、いつか街中ですれ違ったときに気が付いてくれないかなと、Hちゃんにもらったシユシュで髪を結ぶたびにこっそり思っている。

(生命環境学群生物学類3年 添島香苗)



### 編集後記

この度、ペデジャーなるの編集長に就任させて頂きました、知識情報・図書館学類4年の伊藤洸紀と申します。去年度からペデジャーなるの編集員として活動を始め、今まで4本ほど記事を書かせて頂きましたが、今年度から編集長としてペデジャーなる全体を監督していく立場となりました。勿論、今年度も私自身も記事を書いていくつもりではありますので、その時は是非ご一読頂ければと思います。

編集長としての今後の意気込みとしては、『OB・OGの方に向けた筑波大学のメールマガジン』というペデジャーなるの特徴を踏まえながら、各編集者の個性がしっかりと現れた記事を掲載することで、読者の皆様に筑波大学の今、そして筑波大学に所属する学生の今について、楽しんで知って頂けるペデジャーなるを作っていければ、と思っております。また、記事のあり方や質についても随時改善を重ねて、より皆様に楽しんで頂けるものを作っていきたいと思っておりますので、ご意見・ご感想についてはお気軽にお寄せいただければ幸いです。それでは、今年度もペデジャーなるをよろしくお願い致します。

(情報学群知識情報・図書館学類3年 伊藤 洸紀)

### お知らせ

#### <「ペデぶろぐ」について>

ペデジャーなるのブログを開設しています。投稿内容は「ペデジャーなる」の配信に関するお知らせやミーティング風景などなど。「ペデジャーなる」をもっと身近に感じていただけたらと思います。また、ペデぶろぐには連絡フォームもございますので、気軽にご要望や感想も送信することができます。

ペデジャーなる」とともに「ペデぶろぐ」もよろしくお願い致します。

<http://pedejournal.blogspot.jp/>

### <「筑波大学校友会カード」について>

平成 27 年 4 月 1 日から筑波大学公式クレジットカード「筑波大学校友会カード」事業がスタートいたしました！入会キャンペーンも実施していますので卒業生の皆様もぜひご利用ください！詳しくは、<https://alumni.tsukuba.ac.jp/cashcard.html> をご覧ください。



### <「第 19 回茗溪・筑波グランドフェスティバルの開催」について>

茗溪・筑波グランドフェスティバル(MTGF)は、前身の諸学校(東京教育大学等)まで含めた筑波大学の卒業生、在学生及び現役の教職員が所属や世代を超えて交流する会で、今回は 6 月 13 日(土)に開催します。「メディアアート」をテーマとしたシンポジウムと懇親会により構成されます。どなたでもご参加いただけますので、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。詳しくは、<http://www.tsukuba.ac.jp/event/e201412251326.html> をご覧ください。

- 筑波大学 公式ホームページ: <http://www.tsukuba.ac.jp/>
- 筑波大学 facebook: <https://www.facebook.com/univ.tsukuba.ja>
- 筑波大学校友会 SNS「KUTTUK ba」: <https://alumni.tsukuba.ac.jp/>  
(筑波大学校友会 SNS／筑波大学生涯メールアドレス 利用登録募集中!)

- 編集・発行:「ペデジャーなる」編集ワーキンググループ
- デザイン・配信作業: 国立大学法人筑波大学連携・渉外室
- ご意見・問い合わせ先: 国立大学法人筑波大学 連携・渉外室  
〒305-0821 茨城県つくば市春日 1-8-3 筑波大学春日プラザ 1 階  
[TEL:029-853-2030](tel:029-853-2030) [FAX:029-853-6576](tel:029-853-6576)  
[gakuyu@un.tsukuba.ac.jp](mailto:gakuyu@un.tsukuba.ac.jp)

- 配信停止をご希望の方  
下記メールアドレス宛に『配信停止希望』の旨明記し、送信してください。  
[gakuyu@un.tsukuba.ac.jp](mailto:gakuyu@un.tsukuba.ac.jp)

メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。

Copyright © 2014 University of Tsukuba. All Rights Reserved.